

高林白牛口二の謡を聴く会

おはなし

第一部

高林白牛口二

第二部

藤戸

高林白牛口二

千寿

高林呻二

烏頭

高林白牛口二
観世新九郎

昭君

高林昌司

主催 高吟会

令和4年 12月2日(金) 午後6時15分始 十四世喜多六平太記念能楽堂(喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席) 全4,000均一

※当日、藤戸の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからもご購入いただけます。

高吟会 〒603-8354 京都市北区等持院西町15

TEL. 075-462-1490 FAX. 075-463-3494

e-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/



喜多能楽堂チケット購入ページ

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL: 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分



新型コロナウイルス
感染対策ガイドライン

http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/

喜多能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には喜多能楽堂HPにてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。



文化庁「ARTS for the future! 2」
補助対象事業

第九十六回 喜多流涌泉能

令和四年十二月二日(金)

第十四回 高林白牛口二の謡を聴く会

午後六時開場

動静以天地
視哉涌泉美
鈿之翁

第一部 午後六時十五分始

おはなし 藤戸について 高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟 藤戸 高林白牛口二

仕舞 千寿 高林呻二

一調 烏頭 高林白牛口二
観世新九郎

仕舞 昭君 高林昌司

附祝言

終了予定 午後八時半

主催 喜多流高吟会

藤戸を謡うについて 高林白牛口二

親子の別離を主題とした曲は、多数存在します。多くは母とその子を題材にした狂女物が代表的ですが、その他として、木賊・天鼓・藤戸などがあります。このうち天鼓と藤戸は成人した子供が、対象です。天鼓は父親と青年の子です。藤戸は、母親と、成人して子供も存在する息子の漁師です。

今回謡います藤戸の漁師は、領主に乞われて良かれかすと道案内をしました。その報いが領主による理不尽な刺殺だったので。母親を始め家族のやるせない気持ち、少しでも晴らそうと、母親は領主の前へ進み出ます。

母親の心情と、手柄を上げるために平民の命を平然と無視する領主との対決が、前場です。その母親の真剣な訴えに領主は叶わず、罪を認めて法要を営み、遺族の救済を約束します。

後場の法事の場に、現れたのは殺された漁師の亡霊です。能の亡霊には、現世の姿で現れる曲と、亡者の姿で現れる曲とがあります。藤戸は亡者の姿で現れます。この事件の悲惨さを現すには、亡者の姿の方が適当です。最後には法要の功德で、成仏してこの曲は終わります。

前場では、母親の切実な訴えを、後場では漁師の死後の苦患を、この両面の場面描写を、声楽として表現する事が、今回の大きな試練です。

米寿を迎えて体力も限界に近付いてきてはいますが、残りの花として残って居る気力が、何処まで通じるか、自分との戦いと覚悟を決めています。

次回予告

令和五年四月八日(土) 午後二時始

第九十七回 涌泉能 於京都大江能楽堂

一曲独吟 忠度 高林白牛口二

能 羽衣 高林昌司